

連弘の家に召し、秩祿を擡うて別に十五人扶持を給し、能登島に配流することを宣し、翌日本多圖書政守の家に錮し、十一日別に就の養子主馬に祖父の名跡を繼がしめて三百石を賜うた。翌八年九月三日配所に歿。年六十二。寺島隨筆・夢物語等の著がある。

テラジヤマ 寺地山 石川郡大乘寺背後の山であるが、もと寺地村領であつた爲の名で、大乘寺に關係はない。元祿十三年句空の草庵集に、『大乘寺の修造めでたきを拜み、寺地山をたどりて、野田の芝にわりこ取ちらし醉吟。木枯や野は大根の青がしら 雨青。』
↓テラジ 寺地(石川)。

テラシヨウモン 寺證文 ↓テラウケシヨウモン 寺請證文。

テラダガハ 寺田川 鳳至郡祖倉領山から發し、矢波のうち猪平に發するものを合はせ、矢波のうち寺田に至つて海に注ぐ。流程四軒餘。一に矢波川ともいふ。

テラダトヨザエモン 寺田豊左衛門 初め御算用者から出で、後小頭となつて新知八十石を受け、安永中坊主頭に進み、隠居の後名を幸焉と改めた。子孫相繼いで藩に仕へる。

テラダマサモリ 寺田將盛 通稱松次郎。平馬、號は歲寒。文政元年兄數馬の遺祿百六十石を襲ぎ、組外に列し、天保元年江戸御廣式番に任じ、九年前田齊泰の子高松丸の傳となり、後祿百石を加へ、奥小將番頭・組頭並に累進し、元治元年六十二歳の時致仕して別に養老俸百五十石を受けた。

テラツ 寺津 石川郡犀川庄に屬する部落。
テラニシコレヤス 寺西伊安 通稱主馬允。もと丹羽氏であつたが、寺西秀澄の甥で、幼

時からその養ふ所となつた。年十五、京に往き前田玄以に仕へ、三年の後金澤に還り、慶長五年前田利長に仕へて三百石を受け、後大坂の役に利常に従ひ、功を以て祿九百石に至り、馬廻頭を経て定番頭に進み、萬治三年に歿した。

テラニシジュウソウ 寺西十藏 尾張の人。十歳にして前田利長に仕へ、小將組に列し、祿二百石を受け、大坂再役に利常に従ひ、青屋口で首級一を獲、元和八年歿。子孫六代藤馬實親百七十石を領し、天保六年五月自殺して家斷絶した。

テラニシタケチカ 寺西武親 通稱與市郎。父は與市郎秀長。前田利長の侍臣となつて三百石を受け、大坂兩役に利常に従ひ、元和七年削髮して宗齋と號し、寛文六年七十九歳を以て歿した。

テラニシタケチカ 寺西武凡 寶永三年小堀左兵衛の與力として百五十石を領し、享保九年御文庫御用を命ぜられ、十二年三十石を増して組外に班し、江戸御廣式御用達に轉じ、延享二年頭並となり、三年總辦附物頭並に任じ、寶曆五年十月十日七十六歳を以て歿。

テラニシタケノリ 寺西武勳 通稱九太夫。寛保三年父の檢校の後を受けて十人扶持を領し、延享四年新知百二十石定番御馬廻となり、表納戸奉行・御預地奉行に歴任し、安永中五十石を加へ、御細工奉行・顯婦附物頭並となつて、七年正月十五日歿した。

テラニシテンザエモン 寺西傳左衛門 養父權左衛門の後を承けて百二十石を領し、組外に列し、享保九年五十石を加へ、淨珠院附御用人となり、寶曆十一年同御附物頭並に進

み、明和二年免ぜられた。

テラニシナホツク 寺西直次 尾張の人で、通稱駿河守・備中守。豊臣秀吉以降秀頼に至るまで仕へ、一萬十五石を領したが、關原役に敗れた後、慶長六年來つて前田利長に仕へ、能登鹿島郡津向に在つて、千五百石を受けた。直次後致仕して意閑(又意寒とも書かれる)と號し、五百石を隠居料とし、慶安二年歿。享年九十三。子孫代々藩に仕へる。

テラニシナホユキ 寺西直行 通稱三右衛門。備中守直次の三子。寛永十六年前田利常に召出され、金子二十枚を受け、慶安二年父の致仕料五百石を襲ぎ、御馬廻組に班し、寛文六年歿。子孫代々藩に仕へる。

テラニシハンエモン 寺西半右衛門 治兵衛秀則の弟。初め織田信長に從ひ、その歿後佐々成政から七百石を祿せられ、次いで天正十三年前田利長に仕へ、六百石を受け、後百石を増し、元和九年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

テラニシヒデアキ 寺西秀詮 通稱藏人。文化九年父九左衛門秀一致仕の後六千五百石を襲ぎ、十二年また秀一の隠居料五百石を併せ、十三年寶圓寺火消となり、天保十二年自分知の内五百石を養老俸として、家を弟要人秀周に譲つた。

テラニシヒデカタ 寺西秀賢 幼名庄右衛門、後若狹・石見。父は秀澄。寛永十五年十四歳の時家祿七千石を襲ぎ、次いで前田利常に從ひ小松に移り、家老となつた。正保二年光高の遺骨を奉じて高野山に行き、三年江戸に於て將軍家光に謁し、後江戸邸の留守居となり、利常薨後金澤に歸り、寛文中火消役

となり、又出銀奉行に遷り、寶永二年六月退老して宗寬と號し、本祿のうち七百石を隠居料とした。六年歿、齡八十五。

テラニシヒデズミ 寺西秀澄 初め若狹、後治右衛門、また若狹。一諱秀勝。天正十年父治兵衛秀則と共に前田利家に仕へて、自ら千石を受け、後秀則の告老するに及び、その祿五千石を受け、自俸を父の養老祿とした。秀澄柳瀬の役に功あり、大聖寺の役には能美郡千代の壘を守り、爲に二千石を加へ、大坂兩役にも出陣し、寛永十五年致仕して宗乾と號し、十八年八十三歳を以て歿した。

テラニシヒデチカ 寺西秀周 通稱要人。天保十二年兄藏人秀詮の後を受けて祿六千五百石を領し、秀詮歿して隠居知五百石を復した。秀周天文曆數を好み、その邸を觀星樓と名づけ、天保四年六月朔日日蝕の觀測を行つた。時に年三十八。爾後の履歷を詳かにせぬが、安政五年六十三歳で尙生存してゐた。秀周は字を慎微といひ、圓水又は芸園と號して書を描いた。

テラニシヒテナガ 寺西秀長 通稱與市郎。九兵衛松秀の子。初め織田信長に仕へ、その歿後前田利家の甥たるを以て七千石を受け、天正十八年關東の役に從ひ、次いで奥羽に入り、歸路十月七日出羽菅野臺で土寇の爲に倒された。享年三十七。

テラニシヒテノリ 寺西秀則 通稱治兵衛。宗興。尾張の人。父は石見秀之。初め近江石部城を領して織田信長に仕へ、佐久間信盛の部下であつた。天正三年長篠の役に從ひ、重創を受け、翌年信長の一向宗徒を撃つに當り、高屋城を攻め、亂後信盛に屬して天王寺